

文化講座紹介

埼玉県立図書館の秋冬の定例行事、文化講座。これまで様々な講師をお招きし、バラエティーに富んだ講座を開催してきました。今までの講座の中から、特にご好評を頂いたものや、印象深かったイチオシの講座をご紹介します。
また、今年度も専門家をお招きして開催します。ぜひ足を運びください。



「枕草子『香炉峯（こうろほう）の雪』章段をデザインする」（平成28年度）

◆久喜：2016年11月19日

清少納言が書いた『枕草子』は、誰もが一度は目にしたことがあるのではないだろうか。「春はあけぼの。」という季節の素晴らしい情景を伝える文章が印象的ですが、平成28年度は作中の「香炉峯の雪」という章段についての講演会を開催しました。当日はあいにくの雨でしたが、多くの方に足を運んでいただき、参加者の期待が伺えました。

講師にお招きしたのは、大東文化大学准教授（当時）の浜口俊裕（はまぐちとしひろ）先生。先生には、多くの絵巻や絵画に描かれた「香炉峯の雪」の資料をご準備いただき、文字だけでなく視覚的にも作品を味わいました。

講演では、各時代に描かれた「香炉峯の雪」の絵画を、作品の時代背景とともにわかりやすく解説していただきました。全く同じ場面を描いた作品ですが、人物の向きや背景の描写、構図など様々な違いがあり、参加された方からも感心の声が漏れ聞こえていました。

講演終了時には、参加者から自然と「ブラボー！」の聲が上がり、会場はスタンディングオベーションに。あまりの盛り上がりで当時の担当者も驚いたそうです。また、誰からともなく先生に質問する手が挙がり、時間が足りなくなるほど充実した質疑応答が続きました。ご参加いただいた皆さんが熱心に聴講し、大盛況のうちに幕を閉じた講座でした。

令和6年度（2024年）の講座は申込受付中！

申込期間 熊谷：10月29日（火）～11月13日（水）
久喜：10月12日（土）～定員達し次第終了

※久喜図書館講座「つなぐ、彩る～スピカデザインの現場から～」
講師：大下修央氏（デザイン事務所「スピカデザイン」代表）
日時：令和6年11月19日（土）
会場：埼玉県立久喜図書館 1階視聴覚ホール

「Moi Suomi! 幸福の国 フィンランドを知ろう」（令和元年度）

■熊谷：2020年1月19日

令和元年度は、日本とフィンランドとの外交樹立100周年を記念したフィンランドを知るための講座を開催しました。

文化講座はほとんどが半日（2時間程度）のイベントなのですが、この時は10時から16時30分まで1日がかりのイベントでした！

その理由は、3つの講演に加え、DVDの上映会と演奏会も実施するという盛りだくさんの内容のためです。

3つの講演のテーマはそれぞれ異なり、「フィンランドの魅力を知る」「北欧の教育を知る」「フィンランドの文化を知る」というバラエティに富んだラインナップでした。

講師は、フィンランドセンター所長のアンナ＝マリア・ウィルヤネン氏、東海大学文化社会学部北欧学科講師の柴山由理子氏、株式会社ムーミン物語クリエイティブディレクターの川崎亜利沙氏とカンテレ演奏家の桑林美恵子氏をそれぞれお迎えしました。

「フィンランドの文化を知る」テーマの講演は演奏会を兼ねたものになっており、琴に似た民族楽器カンテレの生演奏もあわせてお聴きいただきました。たくさんのお申込みをいただいたようで、抽選にはずれてしまう方も出るほどの盛況ぶりでした。ご参加いただいた皆様にはとても楽しんでいただけたようです。

「身体感覚で読む古事記 ～千年以上昔の日本人は何を感じていた？」（令和元年度）

◆久喜：2019年10月26日

「古事記」を「身体感覚で読む」とは？ タイトルからすでに気になる講座です。

講師にお招きしたのは、下掛宝生流（しもがかりほうしょうりゅう）の能楽師として活躍されている安田登（やすだのぼる）先生。NHK Eテレの番組「100分de名著」で当時、『平家物語』の講師も担当されていました。また、開催したのは平成から令和に元号が変わった年で、今までになく古典作品への関心が高まっていた時期でした。先生の人気と古典作品への興味とで申込みは開始当日から盛況で、何と講座当日の2週間以上前に満員となりました。

当日の講座も盛り上がりました。先生の講座はただ座って聞くだけではなく、参加者も一緒に声を出すことで、実際に「身体感覚」を使って理解を深めました。音読したのは何と、ヘブライ語で書かれた『創世記』の一節。人生で初めての体験だという方も多かったのではないのでしょうか。

講演は『古事記』がメインテーマでしたが、先生が古今東西の古典作品に通じていることもあり、甲骨文字で書かれた中国の逸話、古代シュメール人の神話との比較や共通点にまで話が及び、その博覧強記ぶりに会場からは感嘆の聲が挙がっていました。

アンケートでは参加者の回答の約9割が「満足」「やや満足」で、大変満足度の高い講座でした。当時の館長も「またお呼びしたい！」と興奮していたとか。



New! 「火への対抗と信仰の民俗」（令和6年度）

■熊谷：2024年11月30日

令和6年度は、文化講座「火への対抗と信仰の民俗」を11月30日に開催します！

昨年度は、歴史と民俗の博物館の出張講座を文化講座に代えて実施しました。そちらが大変好評でしたというご縁もありまして、今回の文化講座では県立歴史と民俗の博物館から民俗学を専門とする学芸員さんをお招きします。今年の講師は戸邊優美 主任学芸員です。

火は暮らしに欠かせないもので時には信仰の対象になりますが、火災という恐ろしい面も持ち合わせています。火に関する民俗行事と町の火災対策のお話を中心に、県内事例にも触れながら火をめぐる対抗と信仰の民俗を探るという内容を予定しています。

お申込み受付期間は10月29日から11月13日まで、応募多数の場合は抽選となります。

同時期に2階ロビーでは関連資料展「火への畏怖と親しみー火消の歴史と火の民俗をたどるー」を開催します。文化講座とあわせて楽しんでいただけたら嬉しいです。たくさんの方の御来場をお待ちしております！



「埼玉県立図書館 あんな話こんな話 ～映像と語りによる としょかん回顧録～」（令和4年度）

■熊谷：2022年11月5日

令和4年度は、「県立図書館 あんな話こんな話～映像と語りによる としょかん回顧録～」と題して、県立図書館百周年を記念して開催しました。

講師に、埼玉県立図書館元職員の北爪健一氏、小山正記氏のお二人をお迎えし、要覧や年表には載っていない「こぼれ話」を語っていただきました。

講座は、8つのテーマごとに当館所蔵の懐かしい映像や新聞記事も見ていただきながら県立図書館の歩みを振り返るものです。

中でも、お二人が特に力を注いでこられた「移動図書館のおはなし」「映画会・視聴覚資料のおはなし」については、その当時を知るお二人だからこそ語ることのできる、まさに“こぼれ話”がたくさん飛び出しました。

講師の方のたくさんの素敵なお話があふれ、受講された参加者の皆さんは最後まで熱心に耳を傾けられていました。

参加者の方に県立図書館の思い出などを語っていただいた「みんなの図書館」では、「図書館が好き」という想いが伝わる温かいお言葉をいただきました。サービスの形は変わっていったかもしれませんが、皆さんにとって身近で便利な図書館でありたいという想いは変わりません。

これからも先輩方の意思を引き継ぎ、時代とともに進化し続ける図書館をつくっていく。企画をした職員一同、思いを新たに作る講座となりました。

近年の文化講座（年度毎／講師所属は当時のもの）

2024 New!

- 熊谷 「火への対抗と信仰の民俗」 戸邊優美氏（県立歴史と民俗の博物館）
- ◆久喜 「つなぐ、彩る～スピカデザインの現場から～」 大下修央氏（デザイナー）

2023

- 熊谷 「出張講座 あなたの街にも『れきみん埼玉』」 末木啓介氏ほか（県立歴史と民俗の博物館）
- ◆久喜 「ことばの不思議」 穂村弘氏（歌人）

2022

- 熊谷 「埼玉県立図書館 あんな話こんな話～映像と語りによる としょかん回顧録～」 北爪氏・小山氏（埼玉県立図書館OB）
- ◆久喜 「ミステリー文学における横溝正史の位置づけ」 加藤光男氏（さいたま文学館）

2021

- 熊谷 「今こそ、ラジオ！～レトロで最先端～」 高井昭博氏（FM.クマガヤ株式会社局長）
- ◆久喜 「わくわくする、からだと心の対話術」 近藤良平氏（彩の国さいたま芸術劇場次期監督）

2020

- 熊谷 「温泉を諦めない！ 素敵なバリアフリー温泉をご紹介します」 山崎まゆみ氏（エッセイスト、跡見学園女子大学）
- ◆久喜 「2021年、美術展の楽しみ方」 ※コロナ禍で中止 橋本麻里氏（ライター・エディター、永青文庫、金沢工業大学）

2019

- 熊谷 「Moi Suomi! 幸福の国 フィンランドを知ろう」 アンナ＝マリア・ウィルヤネン氏（フィンランドセンター所長） 柴山由理子氏（東海大学文化社会学部 北欧学科） 川崎亜利沙氏（株式会社ムーミン物語） 桑林美恵子氏（カンテレ演奏家）
- ◆久喜 「身体感覚で読む古事記 ～千年以上昔の日本人は何を感じていた？」 安田登氏（下掛宝生流能楽師）

2018

- 熊谷 「上杉謙信と武蔵の国衆」 石渡洋平氏（『上杉謙信』戎光祥出版 著者）
- ◆久喜 「埼玉道中膝栗毛」 杉山正司氏（埼玉県立歴史と民俗の博物館）

2017

- 熊谷 「中世東国社会と女性たち」 井野上眞弓氏（東海大学）
- ◆久喜 「夏目漱石の生涯と作品」 竹長吉正氏（埼玉大学）

2016

- 熊谷 「河を制す 一戦国時代の上武国境地域の情勢と利根川」 築瀬大輔氏（群馬県立歴史博物館）
- ◆久喜 「枕草子『香炉峯の雪』章段をデザインする」 浜口俊裕氏（大東文化大学）

埼玉県立図書館の文化講座

文学と夜

好みの絵を前にして、その世界にいつまでも閉じ込められていたいと思ったことはないだろうか。

本書は、2016年に亡くなったフランスの作家ミシェル・ビュートルの作品集である。「夢」をテーマに、1980年の来日講演原稿と、画家の絵に自身の文章を加えたコラボ作品2編が収録されている。今回は、このうち「ポール・デルヴォーの夢」を紹介したい。

ポール・デルヴォーはルネ・マグリットと同時代を生きたベルギーの画家で、神殿や月、夜汽車、ミューズたちを繰り返し描いた。本作品では、主人公が案内の女に導かれ、デルヴォーの描く18枚の絵の中の登場人物となって旅をする。本文には、デルヴォーが愛読したジュール・ヴェルヌの「地底旅行」からの引用が添えられている。

絵から絵へ、移動するたびにあらゆるものが変容していく。主人公は、戸惑いつつも自らの置かれた状況

を理解しようとする。読者は、主人公とともに月の光を浴び、神殿に向かう。あるいは夜汽車を見送り、ミューズたちに想いを巡らせる。そうしていつしかビュートルの仕掛けた絵物語の囚われの身になってしまう。

秋の一夜、本書を片手にビュートルの紡ぐ夢の世界に旅立ってみてはいかがだろう。ただし「地底旅行」から帰還したリーデンプロック教授たちのように、こちら側に戻るかどうかは保証の限りでない。

(紹介者 久喜図書館 蓮見博)

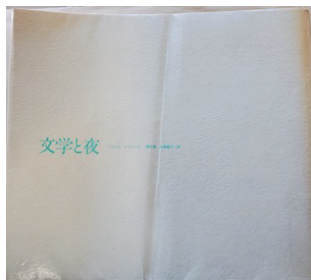
文学と夜

ミシェル・ビュートル著

清水徹、工藤庸子訳

朝日出版社 1982

(所蔵館 久喜図書館 954ブ)



司書がおすすめする、埼玉県立図書館所蔵の本や雑誌、CDなどをご紹介します。

年に1度、県内最大級の図書館イベント

参加無料

図書館と県民のつどい埼玉 2024

2024.12.8 (日) 10:00-16:00 場所／桶川市民ホール・さいたま文学館

「図書館と県民のつどい埼玉」は、本に興味を持っていただきたい、図書館について知っていただきたい、という思いから始まりました。公共・高校・大学等の図書館や、活字文化に関わる団体が協働して開催する県内最大級の図書館イベントです。今年のテーマは「ひらけ、別世界!」。あなたのまだ知らない世界に出会えるかもしれません。

企画 作家 万城目学さん記念講演 10:40～12:00
展示・体験さまざま図書館展示 10:00～16:00
紙芝居基本講座 13:30～15:30
出版社が紹介！
おすすめの児童書2024 14:00～16:00

※一部の企画には定員があり、事前申込が必要です。
詳しくはウェブサイトをご覧ください。

申込 WEBまたは往復はがきにてお申し込みください。
記念講演申込期間：10月1日～11月30日（先着）
紙芝居講座申込期間：10月1日～11月5日（抽選）

図書館と県民のつどい埼玉2024ウェブサイト (<https://www.sailib.net/tudoi2024>)

図書館と県民のつどい
SAITAMA
2024

直木賞作家
万城目学さん記念講演
読書ときどき執筆の日々
10:40～12:00 要予約申込 先着順

出版社が紹介！おすすめの児童書2024
紙芝居基本講座～紙芝居の魅力と楽しむ遊び
万城目学さん参加無料
がーすべて参加無料
みんな県内最大級の
図書館イベント！
ブックトークから保存の読書
埼玉の図書館が選んだベストブック2023
ポップアップグッズを巡るサイード
数字で見る県立図書館2023
など

2024.12.8 (日) 10:00～16:00
桶川市民ホール・さいたま文学館

会場ではか
聞けない話

桶川市民ホール・さいたま文学館

万城目学さん

QRコード

